

## 道路事業の再評価概要書

( ) は、前回計画時

道 路 事 業 の 再 評 価 概 要 書			番 号	
			事業主体	栃 木 県
事業名	快適で安全な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	主要地方道 <small>おおたわらうじい</small> 大田原氏家線		事業箇所名	<small>おおたわら</small> 大田原市 <small>ちかそのさくやま</small> 親園佐久山バイパス
事業区間	大田原市 <small>ちかそのさくやま</small> 親園～佐久山		事業延長	2,200m
H25年度事業化		H25年度用地着手		H28年度工事着手
事業期間	(R4) H25年度～R7年度		事業進捗状況	基準年次：【令和4年度末時点】 進捗率
[うち用地補償費]	[ 2.9 (4.2)億円]		[うち用地補償費]	[ 2.8億円] [ 97%]
全体事業費	37.0 (25.0)億円		既投資事業費	22.8億円 62%
事業概要				
<p>主要地方道大田原氏家線は、栃木県大田原市新富町を起点とし、栃木県さくら市櫻野に至る延長24kmの幹線道路であり、西側に並行する一般国道4号を補完する道路として沿線には産業団地等が立地するなど、県北部地域の物流や通勤等の日常生活を支える重要な路線である。</p> <p>しかしながら、大田原市佐久山地内の現道は交通量が約11,000台/日と多いにもかかわらず、道路幅員が狭小(6.2m)で線形も悪く、縦断勾配も急であるとともに、県道矢板那珂川線との交差点には右折車線がないため朝夕を中心に渋滞が発生しており、安全で円滑な通行に支障を来している。さらに、佐久山小学校の通学路であるが一部歩道が未整備で、自動車と通学児童等が危険な状況となっている。</p> <p>このため、<small>ほろき</small> 箒川を渡河し、大田原市の佐久山地区と親園地区を結ぶ延長2,200mのバイパスを整備することにより、安全で円滑な交通の確保を図るものである。</p>				
事業を巡る社会経済情勢の急激な変化、技術革新、事業計画の大幅な変更等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋼材及び労務単価の値上がり等による増額 25億円⇒37億円 (+12億円)</li> <li>・用地取得に時間を要するため事業期間見直し 令和4年度⇒令和7年度</li> </ul>				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果				
			【総便益 (B)】	【総費用 (C)】
(1) 事業全体 B/C=			3.3	123.1億円
(2) 残事業 B/C=			9.0	123.1億円
			37.0億円	13.7億円
2 事業の整備効果等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般国道4号を補完する道路としての広域的な連携強化</li> <li>・バイパスによる円滑な交通の確保</li> <li>・自転車利用者、通学児童等歩行者の安全の確保</li> <li>・地域経済、産業活動支援</li> </ul>				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までに、箒川左岸側の一部改良工事、函渠工3基、箒川渡河部の橋台2基及び橋脚1基が完成</li> <li>・今年度は、橋脚1基が完成予定</li> </ul>				
2 今後の事業進捗の見込み				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地取得、橋梁上部工事及び箒川右岸側の改良工事等を推進し、令和7年度までに全線供用予定</li> </ul>				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁の床版に耐久性が高く、維持管理の省力化が図れる合成床版を採用しコスト縮減</li> <li>・再生骨材、再生アスファルト合材を積極的に活用しコスト縮減</li> <li>・建設発生土の公共工事間流用によりコスト縮減</li> </ul>				
2 代替案立案等の可能性				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・約97%の用地を取得済みであることから、本計画が最適である。</li> </ul>				
事業の対応方針(案)		本計画で事業を継続する。		

# 事業箇所(位置図、概要図)

## 位置図

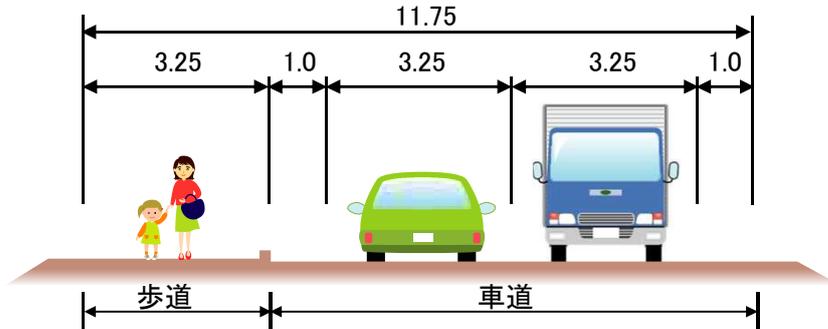


## 標準横断図

### 計画

(単位:m)

一般部



## 概要図

凡例  
写真撮影位置



①



佐久山前坂交差点付近(西進方向)

②



佐久山前坂交差点付近(南進方向)

③



県道矢板那珂川線交差点付近(北進方向)

④



親園交差点(北進方向)

現道の状況

⑤



施工状況【箒川付近】

(再評価)

参考資料1-3

# 快適で安全な道づくり事業

主要地方道 おおたわらうじいえ 大田原氏家線

ちかそのさくやま  
親園佐久山バイパス工区

VERY   
GOOD  
LOCAL  

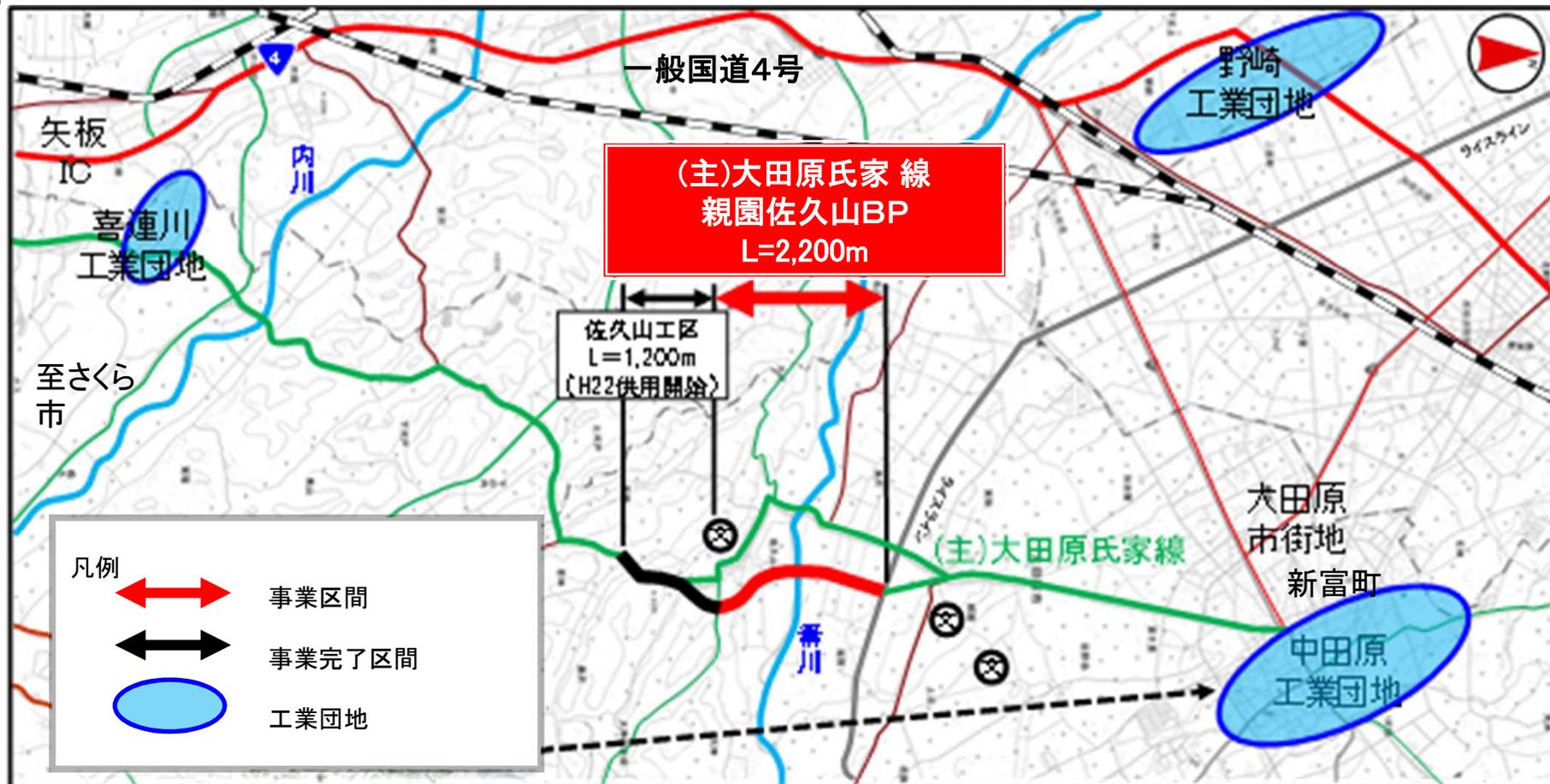
---

とちぎ

県土整備部道路整備課

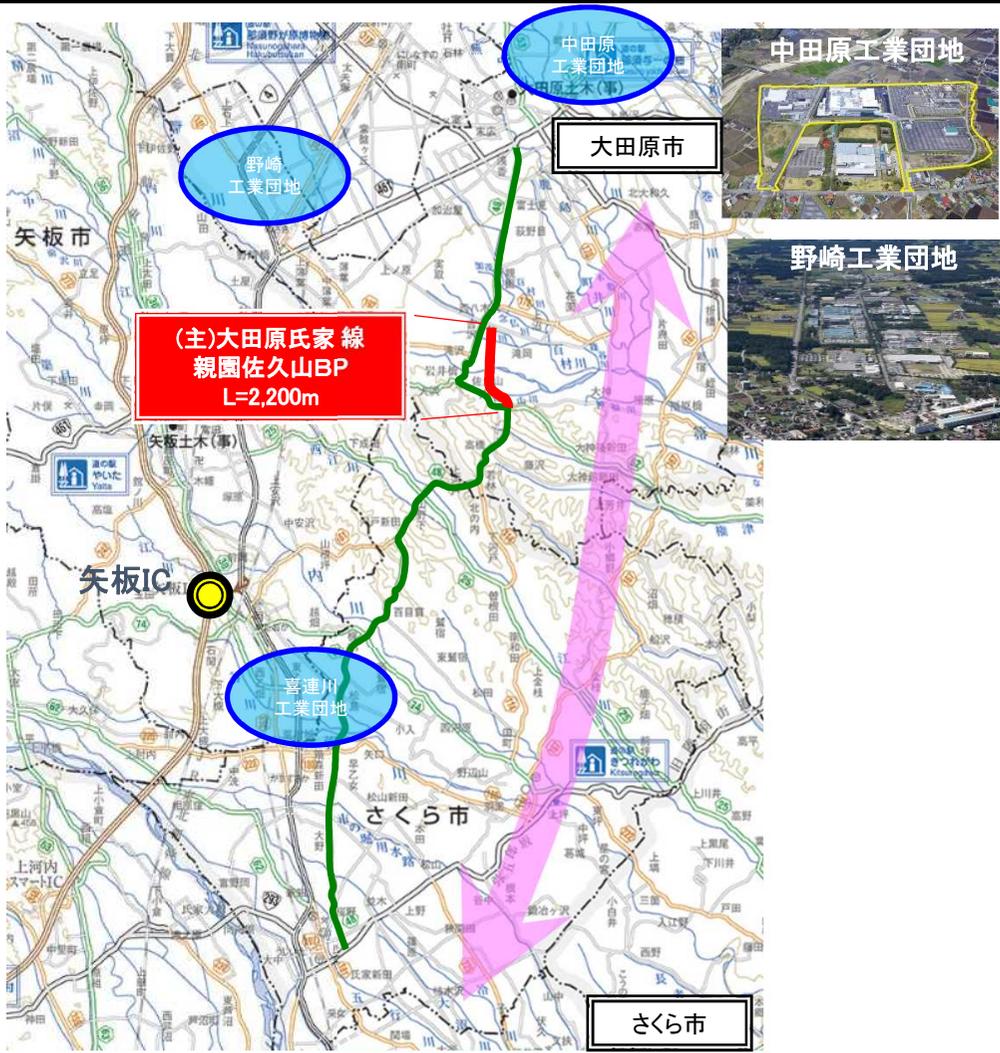


## 2 事業概要①

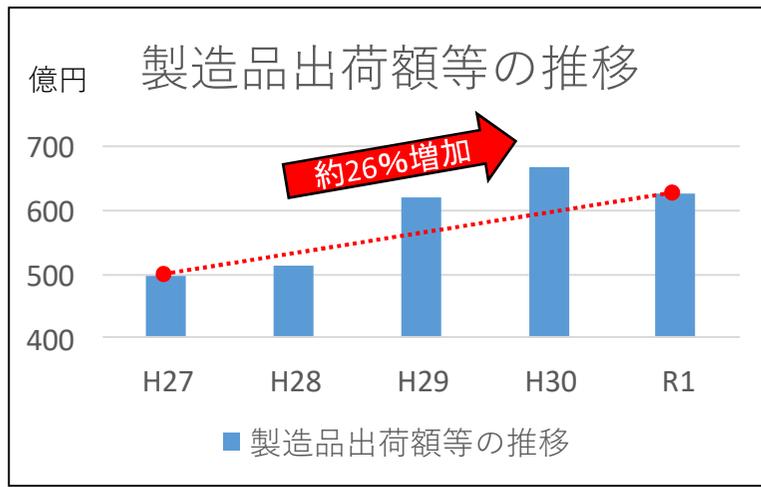


- ・西側に並行する一般国道4号を補完する道路として沿線には工業団地が立地
- ・県北部地域の物流や通勤等の日常生活を支える重要な道路

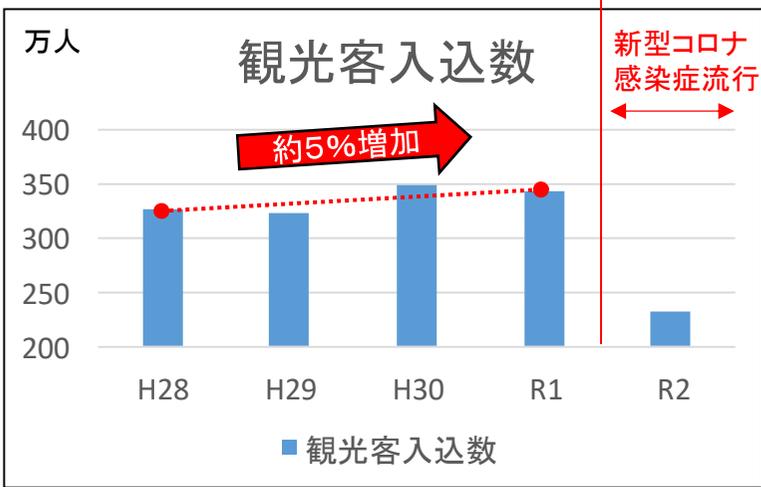
# 2 事業概要②



・大田原市の製造品出荷額等や観光客入込数が増加



■大田原市の製造品出荷額等は、平成27年から令和元年の4年間で約26%増加



■大田原市の観光客入込数は平成28年から令和元年の3年間で約5%増加

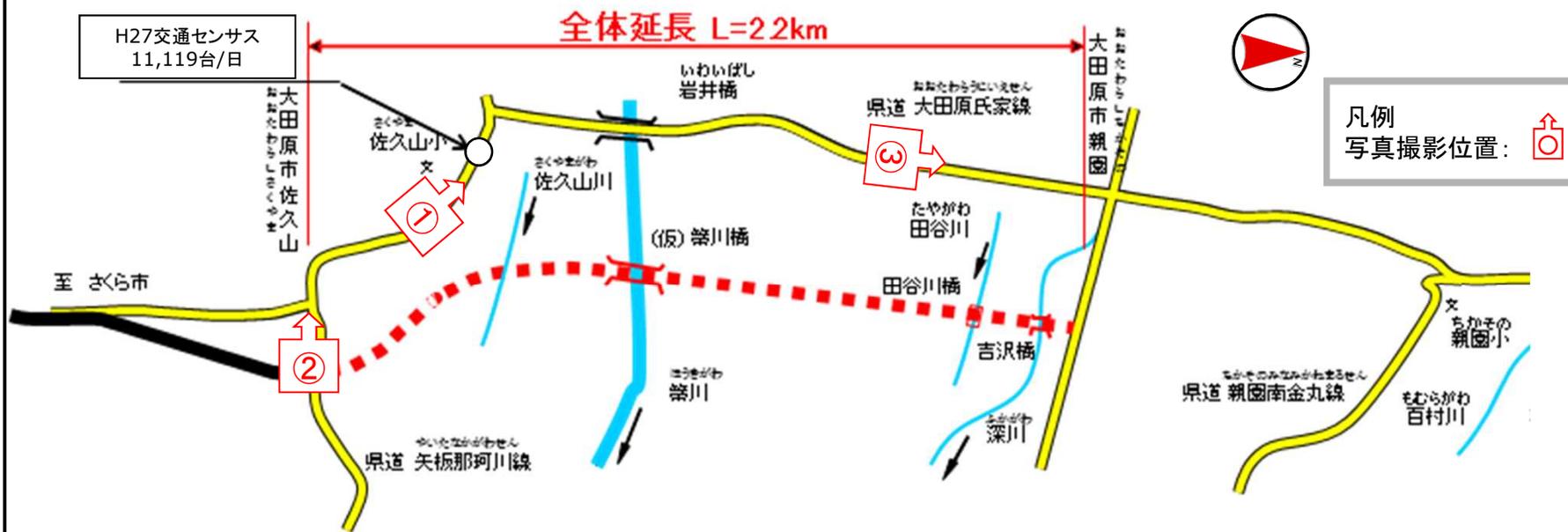
# 2 事業概要③



■ 急勾配で右折車線がない屈曲部

■ 歩道が未整備のため、歩行者等が危険

■ 現道部での混雑状況

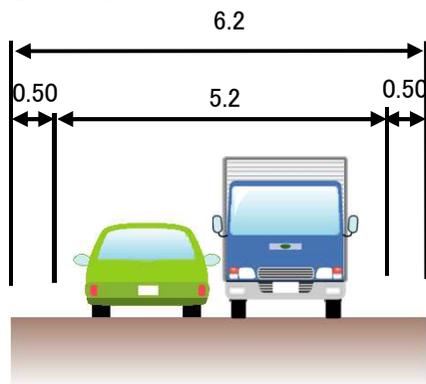


## 2 事業概要④

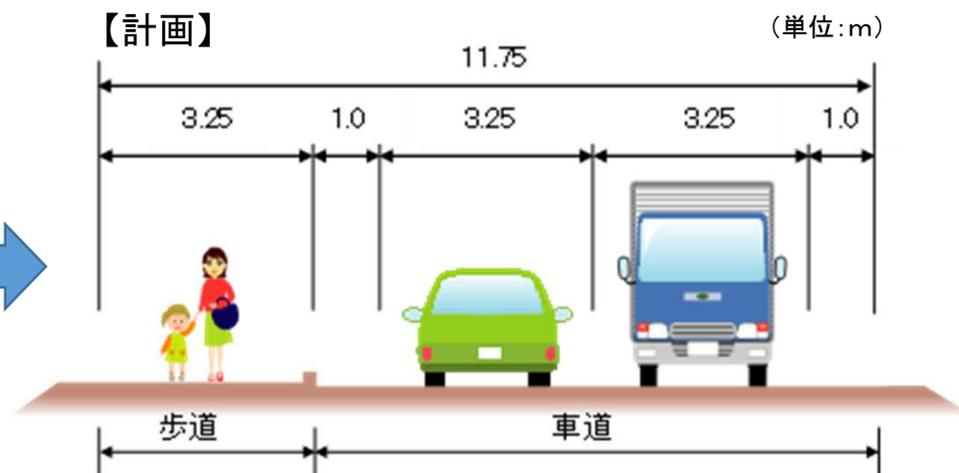
区 間：大田原市親園～佐久山  
計画延長：L=2,200m  
計画幅員：11.75m  
道路規格：第3種第2級  
設計速度：60km/h  
車線数：2車線  
計画交通量：11,200台/日

### 横断面

【現況】



【計画】





## 4 事業計画の変更

### (1) 事業費の増額

労務資材単価や諸経費の上昇等による増額

20.8億円 ⇒ 34.1億円(+13.3億円)

### (2) 事業期間の延伸

用地取得に時間を要するため事業期間見直し

令和4年度 ⇒ 令和7年度(3年延伸)

## 4 事業計画の変更

### (1) 事業費の増額(内訳)

		前回計画		今回計画
	事業費	25.0億円	→	37.0億円(+12.0億円)
内 訳	工事費	20.8億円	→	34.1億円(+13.3億円)
	用補費	4.2億円	→	2.9億円(▲1.3億円)

#### 工事費増額の内容

ア 労務資材単価の高騰に伴う増額	+7.1億円
イ 諸経費等の増額	+6.2億円

#### 用地補償費減額の内容

ウ 実績に基づき再精査したことに伴う減額	▲1.3億円
----------------------	--------

# 4 事業計画の変更

## (1) 事業費の増額(内訳)

ア 労務資材単価、諸経費等の高騰に伴う増額 +13.3億円

① 労務資材単価の上昇による増額 +7.1億円

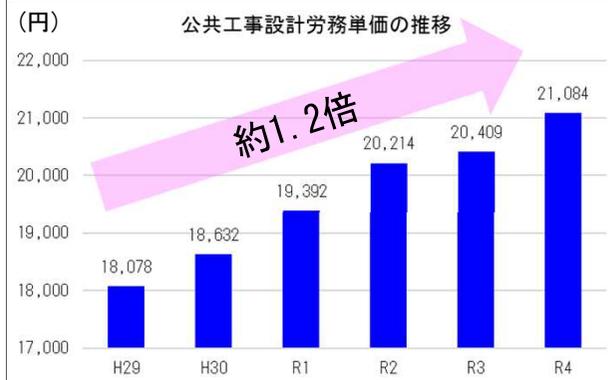
② 諸経費等の上昇による増額 +6.2億円

(諸経费率改定、週休2日補正、消費税等)

### 労務資材単価の推移

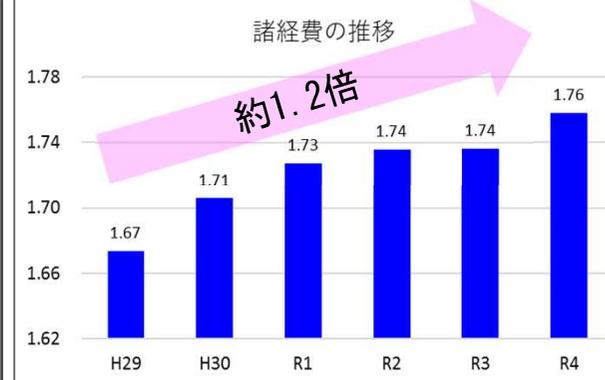


※一般財団法人経済調査会ホームページより  
H27を基準(100)とした場合の宇都宮におけるセメント、生コンクリート、骨材、瀝青材、普通鋼材の平均値



※国土交通省ホームページより  
全国全職種の平均値

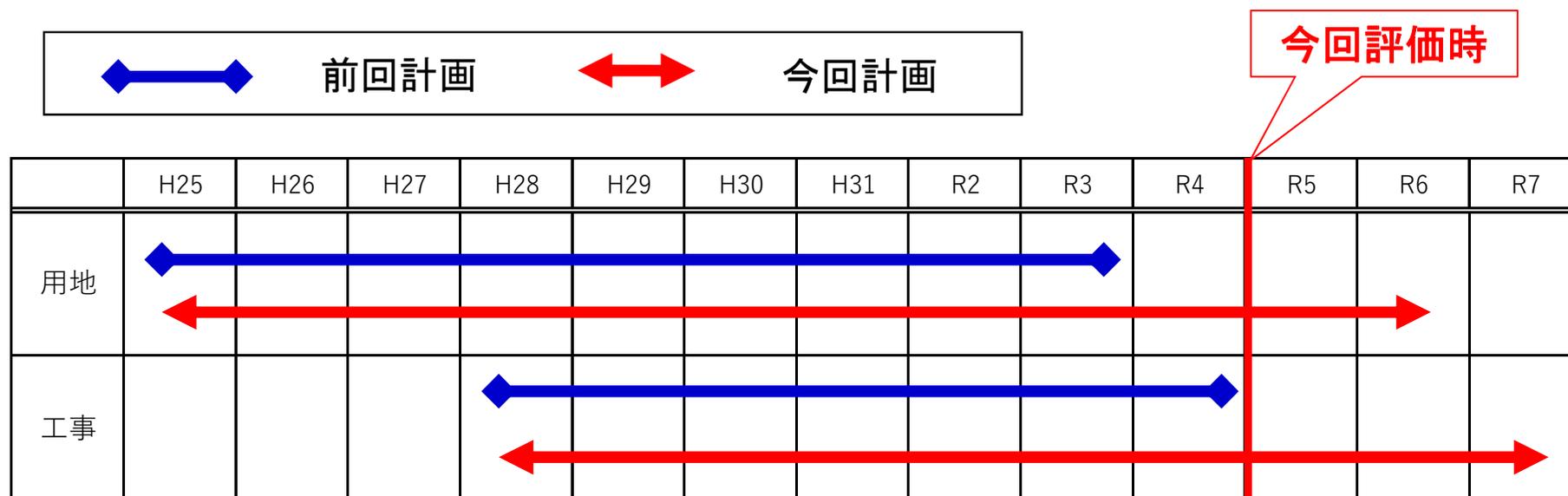
### 諸経費の推移



※直接工事費50百万円に対する諸経費の割合  
(共通仮設費、現場管理費、一般管理費、消費税、週休2日補正)

# 4 事業計画の変更

## (2) 事業期間の延伸



### ■ 事業期間延伸の理由

- ・ 用地取得に時間を要するため

### ■ 今後の見通し

- ・ 残用地⇒令和6年度までに取得予定
- ・ 残工事⇒用地取得1年後の令和7年度に完成予定

## 5 コスト縮減方策

- (1) 橋梁の床版に耐久性が高く、維持管理の省力化が図れる合成床版を採用
- (2) 再生骨材、再生アスファルト合材を積極的に活用
- (3) 建設発生土の公共工事間流用

## 6 整備効果

- (1) 広域的な連携強化
- (2) バイパスによる円滑な交通の確保
- (3) 自転車、通学児童等歩行者の安全の確保
- (4) 地域経済、産業活動支援